

※ 前期は「火災発生」を想定した避難訓練を実施

- 1 目的 緊急時における避難経路を児童生徒に知らせるとともに、避難時の心構えを身につけさせる。
- 2 実施 平成29年 4月29日（土） 予定時刻 12:15～
- 3 避難経路
  - ①『避難経路図BHS』を参照し、指導の徹底を図る。
  - ②実際の避難時は火から遠ざかる経路で避難する。
  - ③BHS校舎全体の緊急警報は廊下全般にアラームが鳴るので、その場合は自分のクラスの生徒、また廊下、トイレにいる生徒にも声をかけ、引率して一番近い出口から外へ出ることに。
- 4 避難段階
  - (1) 発 生……放送；校長（教頭・主幹・教務）ウォークトーカーで『火災発生緊急避難』と発声
  - (2) 避難開始… 火災発生の通報と同時に避難開始
  - (3) 集 合……所定の位置にクラス単位で集合（2列縦隊…出席が13名以下の少数クラスは1列）  
避難場所に着いたクラスから整列をさせて人員確認をし着席をさせてから報告を行う
- 5 指導上の留意点
  - (1) 避難訓練の意義を知らせ、避難経路を確認しておく。
  - (2) 火災発生の合図があったら、動揺を防ぎ静かにさせる。
  - (3) 窓や出入り口を閉めさせ、電気を消し、何も持たせず廊下に出た順に整列させる。
  - (4) 教師は人数を確認してから出席簿を携行し、列の先頭に立ち誘導する。
  - (5) ドアの前での合流地点では、先に先頭が着いた順で、その後はクラス別で交互に避難する。
  - (6) 集合場所は、幼、初、中高の別に、たどり着いた順に奥から、整列していく。（学年無視）
  - (7) 生徒を座らせてから、人員の確認をする。→確認の報告を避難訓練係→教頭（校長）にする。  
※人員数の報告は不必要。異常事態を早く伝える。そのために担任は人数を把握しておく必要がある。
- 6 異常の有無の報告 

○年○組 異常なし あるいは 本日出席の○○さんがいません。
--------------------------------
- ・ 幼児部 （小浜先生） →校長（教頭）
- ・ 初等部学年 （豊田先生） →校長（教頭）
- ・ 中高等部 （渡邊先生） →校長（教頭）
- 7 行動の基本動作  
「おはしも」の法則  
お＝おさない は＝はしらない し＝しゃべらない も＝もどらない
- 8 反省 避難訓練の反省用紙に記入し、5月27日までに避難訓練係に提出し、係が反省をまとめる。
- 9 保護者会との連携等
  - (1) 保護者会（安全当番）の協力をお願いし、トイレ、体育館で逃げ遅れ等の点検。
  - (2) 教務又は教務補佐が最後の点検をする。
  - (3) 校舎内の保護者の方にも、避難訓練に参加するよう呼びかける。